

宮農支援課、蓮田地区担当TACの近藤です。

今年度から取り組んでいる大豆「里のほほえみ」についてご報告いたします。

蓮田地区で昨年度まで栽培していた「タチナガハ」は、収穫前に莢がはじける裂莢(れっきょう)や莢は成熟しているが茎葉が青々としている状態の青立ちにより、収穫量が減少していました。そのため、裂莢が少なく、最下着莢節位が高く機械収穫に適している品種の「里のほほえみ」を今年度より新たに取り組むこととなりました。5月に行われた栽培講習会では、春日部農林振興センターより品種の特性、栽培管理等について指導をうけました。

生産者の皆さんは、栽培管理を徹底し、収穫増を目指したいと「里のほほえみ」に期待を寄せています。



子実(左:タチナガハ、右:里のほほえみ)



草本(左:タチナガハ、右:里のほほえみ)